

桑乾を渡る（賈島）

客舎并州已十霜
歸心日夜憶咸陽
無端更渡桑乾水
却望并州是故郷

客舎 并州 己に 十霜

解説 この詩は十年もの間滞在した并州から北方に向かうとき、桑乾河をわたり、并州をふり返り作つたもの。

歸心 日夜 咸陽を 憶う

語釈 ※桑乾〓河の名。※客舎〓旅住まいの意。※十霜〓霜の期間は一年に一回。したがって、十年をいう。※咸陽〓秦の首都であった。ここでは長安を指す。※無端〓思いがけなく。※故郷〓ここでは都長安をいう。

端無くも 更に 渡る 桑乾の 水

通釈 并州に旅ぐらしすることはや十年。都の長安に帰りたいという気持は昼も夜も募るばかり。それが思いもよらず、さらに桑乾河を渡つて北へ行く事になった。振りかえつて并州を望むと今は故郷のような感じさえする。

却つて 并州を 望めば 是れ 故郷